



2017・7・21

第 279 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 安倍政治を終わらせ、9条改憲の動き阻止を

「改憲日程変えず」と安倍首相  
都議選における歴史的敗北、世論調査に  
おける急激な支持率の低下にもかかわらず、  
安倍晋三首相は、国会に自民党の改憲案を  
提出する方針は「変わっていない」と述べ  
ています（7月4日『毎日』インタビュー）。

記事の関係部分は、「憲法9条については、  
戦争放棄をうたった1項と戦力不保持を定  
めた2項を維持したまま自衛隊の存在を書  
き加える改正案を見当するよう指示し、自  
民党は来年の通常国会での発議をめざして  
いる。首相は『私の世代で自衛隊は憲法違  
反かどうかという議論に終止符を打たなけ  
ればならないと決意した』と強調した」と  
いうものです。

### 4千枚のニュース全戸配布も

【高知県・こうち9条の会】 こうち9  
条の会の全県交流集会が7月8日、高知市  
で開かれ、約50人が参加しました。

南拓人弁護士は基調報告で、改憲の阻止  
へ「押しつけでなく、地道に事実を伝えて  
いこう。異なる主義、誤った認識には言論  
で向かっていこう」と呼びかけました。

県下各地の9条の会が活動報皆。「5月に

### キャッチフレーズの応募 ありがとうございました

九条の会事務局がよびかけたポスターの  
キャッチフレーズの公募にたいしては、短  
期間にかかわらず23名の方から、それぞ  
れ創意をこらした応募がありました。あり  
がとうございました。ポスター作成にあた  
って参考にさせていただきます。

九条の会 事務局

『凶暴罪』と『教育勅語』の問題でニュー  
スをつくり全戸配布した。安倍首相が憲法  
改悪をあきらめるまで追いつめないといけ  
ない（芸西村の会）、「昨年12月に平和を  
願う香南市民文化展を開催。成人式には手  
づくりのパンフレットを配布した。活動を通  
じて憲法を生かした社会をつくる大切さを  
実感している。早く安倍政治を終わらせ  
たい」（野市の会）、「地域の人に原稿を依頼  
してニュースを作成。料理や短歌も載って  
いる。4千枚印刷し全戸配布している」（福  
井の会）などの発言がありました。

### 市民と野党の共闘で護憲勢力の勝利を

【愛媛県・憲法9条をまもる愛媛県民の  
会】 愛媛県民の会は7月8日、松山市で

第 14 回総会を開き、「安保法制（戦争法）の廃止を求める愛媛の会などと協力し、9 条改憲阻止と「共謀罪」法、戦争法、秘密保護法の廃止を求める活動を展開することなどを盛り込んだ方針を決めました。

弁護士の東俊一代表幹事は安倍首相の「2020 年改憲」表明に触れ、「私たちに残された時間は多くない。いま一度、創意工夫をこらし、組職の強化と新たな運動を始めよう」と呼びかけました。

討論では「国民投票で勝てる力を地域で組織したい」「市民と野党の共闘で護憲勢力を選挙で勝利させたい」などの意見が。

総会に先立ち、憲法学者の木村草太氏を招いた記念講には約 300 人が参加。

ビラで講演を知って参加した男性（60）は「実際に条文を示して説明する話には説得力ありました」と感心した様子でした。

## 高校生も「平和の力になれば」と署名

**【愛媛県民の会】** 憲法 9 条をまもる愛媛県民の会は 7 月 9 日、松山市の大街道一番町口宣伝しました。11 日に施行される「共謀罪」法の廃止を求めるビラを配り、署名への協力を呼びかけました。

森英二事務局長は「政治に少しでも疑問を持ち、声をあげて行動する人を取り締まる可能性が多分にあるといわれる共謀罪法。施行されても、私たちはその廃止を求めます」と訴えました。

来島頼子幹事は「私たちは 13 年間、毎月 9 の日に宣伝してきました。こういう運動が共謀罪と見なされるかもしれません。そうなれば、まさに暗黒政治です」と指摘しました。

通りすがりに署名した 3 人組の男子高校生の 1 人は「署名することで、平和の力になるなら」と話しました。

## 憲法に自衛隊書き込ませない

**【徳島県・九条の会徳島】** 九条の会徳島は 9 日、徳島市で戦争法廃止、憲法 9 条守ろうとスタンディング宣伝しました。

雨が降るなか、徳島駅前の元町交差点 4 ヶ所に立ち、「憲法守れ」「アイ・ラブ憲法」のプラカードや横断幕を掲げてアピールしました。

宣伝は、集団的自衛権行使容認の閣議決定がされた直後の 2014 年 9 月から毎月行われています。

上地代三郎事務局長は「憲法に自衛隊を書き込めば、安保法制（戦争法）との整合性からすれば武力行使ができることになる。国民的議論がないままに改憲を進めるのはおかしい。『共謀罪』とともに生活への影響などを示し 9 条を身近に感じてもらえるようにしたい」と語りまし。

## 核兵器禁止条約の採択を祝う

**【千葉市・九条の会千葉医療者の会】** 千葉市内で 7 月 9 日、憲法施行 70 周年・市民公開講座「生きづらい世の中を変えるために一活（い）かそう 9 条・25 条」が開かれました。九条の会・千葉医療者の会、千葉県保険医協会、千葉県民主医療機関連合会が共催し、反核医師の会ちばが後援したものの。

千葉県保険医協会の細山公子副会長が開会のあいさつで、7 日に国連で核兵器禁止条約が採択されたことを歓迎。「多くの被爆

者の願いがなかった。しかし、被爆国日本の政府がそっぽを向いているのは許せない」と述べ、船橋二和病院の鎌田美保・産婦人科医師が聞き役を務めて、作家の雨宮処凛氏が対話形式で講演しました。

雨宮氏は、自身が経験してきた、いじめや自殺願望、フリーター生活などを語り、若者からシングルマザー、単身の女性高齢者などの貧困率を挙げ、「社会保障が制度疲労している」と指摘しました。「貧困が自衛隊の勧誘を促し、戦争する国へとつながっていく」と強調。格差と貧困の是正に声をあげる若者のグループ「エキタス」の活動などを紹介し、「今が頑張りどきです」と訴えました。

千葉県原爆被爆者の会理事の小谷孝子氏が腹話術で、広島での被爆体験や戦争と核兵器の恐ろしさを語りました。

## 地域での協力・共同も強め

**【新潟市秋葉区・秋葉九条の会】** 秋葉九条の会は16日、区内で結成11周年のつどいを開き、120人が参加しました。

五十嵐仁法政大学名誉教授が講演。2年前から安保法制反対、憲法改悪反対で九条の会と共同行動を続けている3団体から連帯あいさつがありました。

同会呼びかけ人の五十嵐修氏（新潟民医連会長）が「憲法について学び合い、頑張っていく機会にしたい」とあいさつ。事務局長の板橋育夫氏は「4区内の野党共闘で大勢の力を結集したい」と述べました。

新郷地区平和を求める連絡会の加藤茂氏は「いっしょになって憲法改正反対、安倍政治を許さないたたかいをしていきたい」

と強調。戦争をさせない1000人委員会の井浦正敏氏は「共同行動で平和を守っていくことが大事」と述べました。

講演した五十嵐氏は、東京都議選の結果は安倍政権への都民の怒りのマグマが噴出したものだが、根源は歴代目民政党政権の反憲法政治にあると指摘。新潟で示した野党共闘と「勝利の方程式」を成し遂げ、安倍政権打倒、憲法改悪阻止のために、リスクと本気の共闘の意思を発揮し、憲法を生かす政治を実現しようと訴えました。

初めての参加者から「こんなに分かりやすくてはっきりし、おもしろい講演は初めてだった」との感想がありました。

## 戦争体験の保守の中にも9条改憲反対

**【三重県尾鷲市・おわせ九条の会】** おわせ九条の会（事務局・東良一さん）の憲法施行70周年記念講演会「憲法考えるつどい」が27日、尾鷲市民文化会館であった。憲法学者の森英樹名古屋大学名誉教授（75）が「どうなる憲法、どうする九条」と題し、「今は九条なんていってられないという意見があるが、一切の戦力を放棄している日本だからこそ、軍事力で紛争を解決しないという九条の原点に立ち返り、各国に対話を呼びかけるべきだ」と強調した。

講演会には市民ら約100人来場。森氏は安倍首相が憲法記念日の今月3日、「2020年を新しい憲法が施行される年にしたい」との発言について政界や報道の流れを説明し、戦争を体験した歴代自民党保守派の言葉を紹介。「宮沢喜一元首相は『戦争をくぐり抜けた者として、むしろ非常識なことが9条に書いてあっていい』と味のある言葉を

残した。後藤田正晴元官房長官は『憲法は戦争の見返り。戦争の犠牲の上に生まれた原点を見失ってはいけない』と言った。あらためてかみしめるべきだ」と訴えた。  
(尾鷲市『南南日日』6月1日抜粋)

### ＜投稿＞ 憲法九条と原発問題と

県知事選挙に当選した川勝知事は浜岡原発再稼働の不同意を明言しました。中電から再稼働の要請があっても同意しないと。4年間は大丈夫かと思えます。

先日、掛川市議会を傍聴してきました。その中で市長から県と御前崎市の同意だけでなく、浜岡原発には他原発に無い4市協定があり、4市（掛川、牧の原、菊川、御前崎市）の合意形成が無ければ再稼働できない旨の発言を引き出してくれました、

ところで、4月29日、北朝鮮がミサイルを発射した時に東京メトロは10分間停止の報道にびっくり。何回か続くミサイル発射にテレビ、新聞等は大体的に「北朝鮮は何をするか解らない。行動は読めない」と報道、政府は都道府県、市町村に対して緊急の避難計画を実施して欲しいとの要望の報道もありました。アメリカは日本海に空母を、日本も同調して駆逐艦を回しました。

時期を同じくして。関西電力の高浜原発4号機、さらに3号機の再稼働がありました。北朝鮮のミサイルが本当に怖いのなら、当然原発の再稼働は止めておくべきではなかったかと思えます。

北朝鮮との問題解消には憲法九条の「壊憲」による武力の増強ではなく、あくまでも外交努力で、そしてミサイルがそれほど怖いなら、原発銀座の日本海にある原発は

止めておくべきだと考えます。＜斉藤明＞  
(「九条の会掛川 通信」第58号)

＜投稿＞「24の瞳」の映画会に参加  
小豆島の美しい自然の中で描かれた、この作品は「寄りそって」という言葉を思い起こさせる映画でした。

戦争へ向かうあの時代、島の分教場の新米教師である大石先生は、12人の教え子達に寄りそい、その一人一人の子の人生を案じ、その子の身になって心配し、励まします。

人としての原点、教育の原点である「優しさ」と「平和主義」が、この映画の根底に流れていると思います。

折しも、「共謀罪」が強行採決された6月15日の午後に「九条の会・尾張旭」の人達とこの映画を観ました。

この日が歴史の分岐点とならないよう、この木下作品が過去の映画ではなく、戦争への道を再び歩み始め「未来を暗示する」映画にならないよう——一人の市民として願わずにはられません。

6月4日に瀬戸蔵「つばきホール」で、「共謀罪、改憲…その先にあるものは？」をテーマにシンポジウムが開催されました。そのリレートークの中で、画学生である女子大生の方が、「表現の自由がなくなると、自分にとってどんな自由がなくなるのでしょうか？」と、問われました。とても大切な視点だと思います。この点について、私も考え続けています。以下略＜西の野町 小塚登志子＞（「九条の会・尾張旭ニュース」第67号）